



TITLE:

# 国立天文台のアーカイブズ

AUTHOR(S):

田島, 俊之

---

CITATION:

田島, 俊之. 国立天文台のアーカイブズ. 京都大学の天文学100年と発展の礎 2011: 43-46

ISSUE DATE:

2011-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/153474>

RIGHT:

# 国立天文台のアーカイブズ

国立天文台 田島俊之

明治維新後まもない 1878 年（明治 11 年）に設置された東京大学理学部星学科の観象台は、10 年後に海軍観象台と内務省地理局の観測業務が移管され、東京天文台へとその名を変えた。当初は編暦や報時などをおもな業務としていたが、やがて第二次世界大戦後の組織改編、岡山や野辺山をはじめとする観測施設の建設を経て、天文学の研究機関としての存在感を強めていく。そして 1988 年には大学共同利用機関の国立天文台となり、名実共に日本の天文学研究の中心としての地位を確立していった。その変容の歴史をたどり、天文台の組織改編や大型観測装置の建設がどのような経緯で推進され、日本の天文学研究コミュニティに何をもたらしたのかを検証するうえで、天文台の内外でのさまざまな活動のありようを物語る資料がきわめて重要な意味を持つことはいままでもない。

本稿では、国立天文台における文書資料や映像・音声記録、現物資料の保存、整理など、アーカイブズの整備に向けての取り組みの現状を簡単に紹介する。

## 1. すばる資料室

国立天文台ハワイ観測所では、三鷹キャンパスのすばる棟 3 階に資料室を設けている。ここでは本来、歴史研究のためというよりもむしろ観測所の日常的な運営のために、具体的にはおもに次の 2 つの観点

- (1) すばる望遠鏡による共同利用観測や装置開発を支援するための、望遠鏡やソフトウェアの技術資料の整備と閲覧環境の提供
- (2) 広報普及活動（科学館や博物館など生涯学習施設やマスコミへの対応）のための資料の保管、整理および提供

に基づいて、必要な資料が利用しやすい形で整理され、活用されてきた。

資料室の床面積は約 90 m<sup>2</sup> で、総延長約 490 m の可動式の収納棚が設置されている。大部分の文書資料はバインダーに綴じられ、この棚に配架されているが、最近受け入れたばかりで未整理の資料は中性紙の文書箱に収納されている。また、すばる望遠鏡の建設作業を撮影したフィルムなどの一部は、温度と湿度を一定に保った保管庫に保管されている。資料室にはその他、フィルムスキャナーやビデオデッキなど、画像処理や映像編集を行うための機材もとそろえている。



国立天文台のすばる資料室

実際に資料室に収蔵されている資料には、以下のようなものがある。

a) メーカー関連の技術資料

三菱電機、富士通など、望遠鏡や観測装置の製造に携わったメーカー各社から納入された仕様書や検査報告書、マニュアルなどである。紙媒体の形で資料室の収納棚に配架されているほか、PDF ファイル化したものが資料室の PC に置かれ、ハワイの現地からも検索・閲覧できるようになっており、望遠鏡および観測装置の整備や改良などの作業に利用されている。

b) 各種刊行物

『光学天文連絡会シンポジウム』など、すばる望遠鏡の建設に関連する研究会の集録や関連資料、科学研究費などの研究成果報告書などのほか、国立天文台ニュースや各種パンフレット類、国立天文台（東京天文台）の年次報告やすばる望遠鏡以外の観測所や天文台、天文学会の設立記念誌なども収蔵している。また、すばる望遠鏡関連の研究者が執筆したり、すばるの画像が掲載されたりしている一般の書籍や雑誌、すばる望遠鏡を紹介している新聞記事のスクラップも収集している。

c) 会議の議事録、ノート、書簡など

すばる望遠鏡の建設計画（JNLT 計画）をめぐり、1980 年前後から当時の東京天文台の内外で開催されてきたさまざまな会合の記録も、資料室には多数収蔵されている。天文台内の技術検討会や望遠鏡ワーキンググループ、メーカーの技術者も交えた連絡会などの議事録、そして全国の光赤外天文学コミュニティの意見を集約するという重要な役割を果たした光学天文連絡会（光天連）の会報などを、その代表的な例としてあげることができる。公式の議事録だけでなく、出席者のノートやアンケート調査への回答などもあり、また海外の情勢を報告する書簡など、興味深い資料も収集されている。また、ハワイ現地での望遠鏡建設に携わっていた中桐正夫氏が執筆し

ていた大型望遠鏡室新聞や山頂見聞録など、個人的な色合いの濃い記録も残されていて、当時の状況を伝える貴重な資料となっている。

#### d) 映像・音声記録

国立天文台ではハワイ観測所の建設が始まる前から UN リミテッド社（旧岩波映画）と契約を結び、建設作業やさまざまな式典などの様子、関係者へのインタビューなどを映像として記録してきた。それらのうち、もともと 16 mm フィルムで撮影されていた初期の記録映像は、ビデオテープ（BETACAM, DV）および DVD にダビングされている。その他、すばる望遠鏡およびその成果が紹介された TV 番組などを録画したビデオテープ（おもに VHS）や DVD などもある。

これらの収蔵資料のうち、特にメーカー関連の技術資料については上記のように、おもに台内の研究者が望遠鏡の整備や装置開発などのために参照することを想定した限定的なデータベースが以前から構築されており、実際に利用されている。だが、それ以外の資料については作業記録が残っておらず、どこまで目録データが登録されているかははっきりしていない。

総合研究大学院大学の平田光司氏が中心となって 2004 年に始まった研究プロジェクト「大学共同利用機関の歴史とアーカイブ」<sup>1</sup>では、高エネルギー加速器研究機構や核融合研究所など、各研究機関がそれぞれ文書資料の収集や整理を行うとともに、EAD（Encoded Archival Description）<sup>2</sup>に基づく資料目録の横断検索システムを構築する努力がなされてきた。このプロジェクトとの連携をはかるためにも、コレクションの階層的な記述についての方針を明確に定め、適切な検索システムを構築し、目録データの登録を進めていく必要がある。

また、これらの貴重な資料を広報普及活動や歴史研究などを目的とした利用に供するにあたっては、資料の公開に関する指針も明確に定めておく必要があるだろう。各種フィルム類や青焼の図面やコピー、感熱紙のファクシミリなど、資料の劣化を防ぐための措置も実施していかなければならない。資料の整理や広報関係の対応など、この資料室に関する業務を担当している職員は自分一人だけなので、なかなか手が回らないのが実情ではあるが、退職された研究者の方々から新たに寄贈される資料も多く、さまざまな問題をこれ以上先送りにしているわけにはいかない。

## 2. 天文情報センター関連

国立天文台天文情報センターに 2008 年 4 月に設置されたアーカイブ室の活動<sup>3</sup>は、中桐さんの詳細な報告にあるように、もともと昔の観測装置など現物資料の収集、展示が中心だった。それ

---

<sup>1</sup> 総合研究大学院大学『共同利用機関の歴史とアーカイブ 2009』、葉山高等研究センター研究プロジェクト「人間と科学」研究課題「大学共同利用機関の成立に関する歴史資料の蒐集とわが国における巨大科学の成立史に関する研究」2009 年度報告、丸善（2010）。

<sup>2</sup> アーカイブ資料の検索手段を記述するための国際標準。アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳『記録史料記述の国際標準』北海道大学図書刊行会（2001）など。

<sup>3</sup> アーカイブ室のウェブサイト：[http://prc.nao.ac.jp/prc\\_arc/](http://prc.nao.ac.jp/prc_arc/)

に加えて、観測で撮影された乾板や、記録写真、映画などの映像資料の収集も行われ、オーラルヒストリー収集の試みも始まった<sup>4</sup>が、文書資料の収集はいまのところ行われていない。活動記録の『アーカイブ室新聞』は発足当初から、天文情報センターのウェブサイトで公開されている<sup>5</sup>。

その他、三鷹キャンパスの図書室では、江戸幕府天文方の所蔵していた和漢書を中心に、和漢書、暦本、洋書などの貴重書を 3000 冊ほど所蔵しており、台内の貴重書展示室での展示のほか、台外の博物館や科学館などへの貸し出しにも応じている。それ以外にも、昔の写真乾板や星図、写真乾板なども、書庫の片隅から見つかることがあるという。

### 3. その他の資料について

アーカイブズ整備の取り組みにおいて先行している高エネルギー加速器研究機構や核融合科学研究所などでは、史料室やアーカイブ室が早くから設置され、機関全体の文書資料の収集と整理を進めているのに対し、国立天文台では残念ながら、全台としてアーカイブズ整備を推進する枠組みはまだ存在していない。各プロジェクトや観測所ごとに、それぞれの活動に関する資料を保管しているのだが、前述のハワイ観測所のように資料室を設置して文書資料を収集・整理している例はほかにはみられない。たとえば岡山天体物理観測所では、観測で撮影された乾板はきちんと管理されており、観測野帳や装置開発関連の記録などのノート類は観測者控え室の書棚に置かれているが、それ以外の文書類や写真類は図書室の書棚や会議室のロッカーなどにあまり整理のなされていない形でしまい込まれている。東京天文台では戦時中の火災により、それ以前の資料の多くが焼失してしまったといわれているが、その後も組織の統廃合や観測所の閉所などの混乱で所在のわからなくなってしまった資料は少なくないものと思われ、図書室の書庫など思わぬ場所で意外なものが発見されることもある。

また、非現用法人文書の扱いについては、2011 年 4 月 1 日に公文書管理法<sup>6</sup>が施行されるのにもかかわらず、関心も低く何の検討もなされていないのが実情である。天文台全体の文書管理、アーカイブズ整備の枠組みの構築に向けて、事務部の方々も交え、（おそらくは天文情報センターが中心となって）早急に検討が行われることを期待したい。

---

<sup>4</sup> 藤田良雄氏へのインタビュー，2010 年 6 月 18 日。書き起こしが完了し，インタビューによる校正などがこれから行われる予定である。

<sup>5</sup> 『アーカイブ室新聞』：[http://prc.nao.ac.jp/prc\\_arc/arc\\_news/index.html](http://prc.nao.ac.jp/prc_arc/arc_news/index.html)

<sup>6</sup> 公文書等の管理に関する法律，<http://law.e-gov.go.jp/announce/H21HO066.html>